

## 問題志向型看護録に基づく新人看護師への看護推薦支援の試み

木原 崇博<sup>†</sup> 仲谷 善雄<sup>‡</sup>立命館大学大学院 理工学研究科<sup>†</sup> 立命館大学 情報理工学部<sup>‡</sup>

## 1. はじめに

看護師は時間に制約のある日々の業務の中で、数多くの看護記録を残している。しかし、その記録は特定の患者の個人的記録のようなものであり、多くの看護情報が蓄積されるばかりで、有効に活用されていない場合が多い。

また、新人看護師はマニュアルを用いたオリエンテーションや現場での実践的な経験を通して徐々に技術を身に付けていく。しかし、先輩看護師が残している看護記録から学ぶことも多くあるはずである。この看護記録に残されている内容は先輩看護師が経験した経験値の集まりであり、それらを新人看護師の教育に役立てることには大いに効果があると考えられる。

本研究では、新人看護師を対象として、問題発生時に備え、PONR (Problem Oriented Nursing Record:問題志向型看護録) に基づいた看護手法の推薦を行う医療系教育支援を提案する。特に、経過記録に着目し、過去の経過記録から問題や経過記録が類似する患者情報をシステムがを見つけ出し、看護過程において起こり得る事象を予測し教示する。また、そこから考えられる注意点や看護手法の情報提示をする。このような支援により、これまでに残してきた看護記録を、特定患者の記録だけではなく、看護師の成長を促し、他者を救う情報となり得ることが期待される。さらに、病院全体としての知識継承がなされ、ケア技術の向上も期待できる。

## 2. 研究動向と関連システム

## 2.1 POS について

POS (Problem Oriented System) とは、患者の問題を明確にとらえ、その問題解決を論理的に進めるひとつの体系である。POS の考えに基づく記録としては、医師が活用する問題指向型診療録 (Problem Oriented Medical Record) と、看護師が活用する問題指向型看護録 (Problem Oriented Nursing Record) がある。

Knowledge Retention Support framework of novice nurses based on Problem-Oriented Nursing Records

<sup>†</sup>Takahiro Kihara: Graduate School of Science and Engineering, Ritsumeikan University

<sup>‡</sup>Yoshio Nakatani: College of Information Science and Engineering, Ritsumeikan University

電子カルテの導入により、これまでの紙のカルテが持つ「病歴の把握が困難」という問題を解決する構造になっている[1]。以下に PONR の内容を示す。

## PONR の構造

- 基本データ  
診療の基礎となる情報。主訴、現病歴、現症、既往歴、生活歴、家族歴などが主な項目である。
- 問題リスト  
基本データから患者の問題(プロブレム)点をリストアップする。
- 初期計画  
初診時における問題ごとの計画を立案する。「治療計画」、「診断計画」、「教育計画」などがあり、必要に応じて記載する。
- 経過記録  
問題ごとにどのような経過をたどったかを記録する。記載は SOAP 形式で行う。SOAP とは Subjective (主観的事項)、Objective (客観的事項)、Assessment (考察、評価、判断)、Plan (計画、方針) のことで、経過をこの分類に従って記載する。
- 退院時サマリー

POS への取り組み例として、医療サービスの質の向上を目的に患者の心理的知識の形式化を試みた医療サービスオントロジー[2]や POMR を用いたカルテシステムである歯科用電子カルテシステム「カルテメーカー」[3]がある (図 1)。

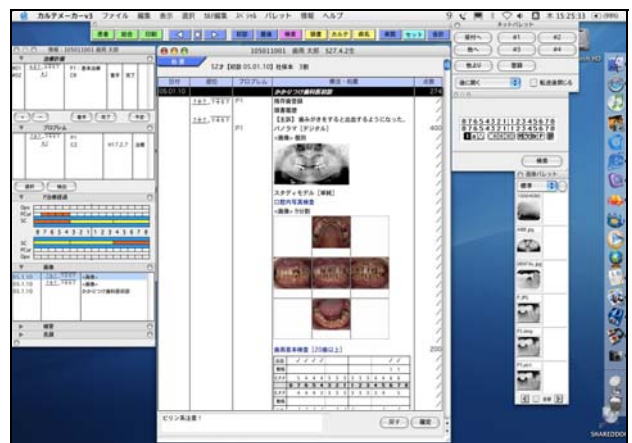
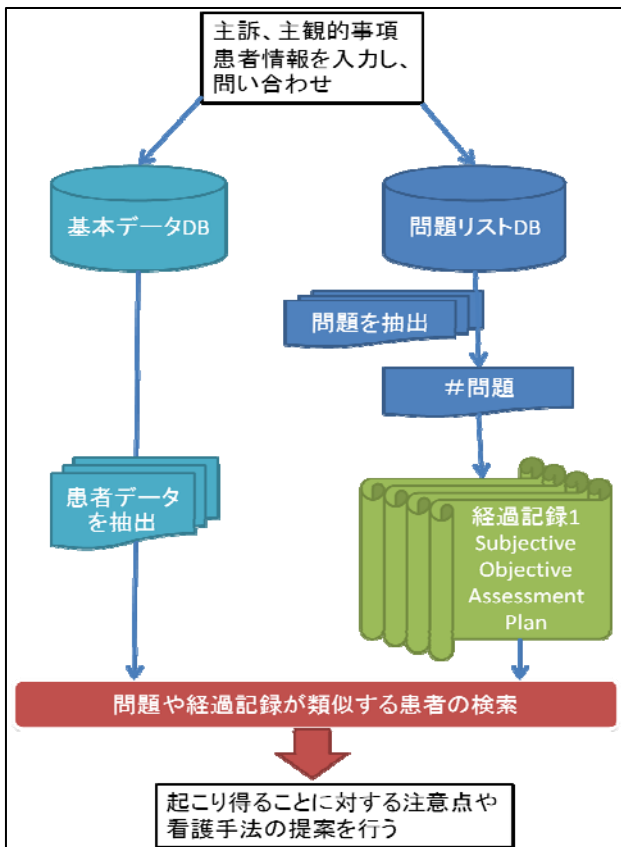


図 1 カルテメーカー

### 3. システム概要

医療という分野は人間を対象に扱うので、必ずしも立案した計画通りに患者が回復するとは限らない。特に、長期入院を要する症状では、医師や看護師は様々な場面で柔軟な判断力が求められる。そうした判断力は、これまでは豊富な経験を通じて獲得されてきた。しかし人手不足の中で、新人看護師は即戦力であることを求められる現状がある。

本研究では、PONR を基に新人看護師に判断力の形成を支援するための情報提供を行う。今回は特に「経過記録」の SOAP 形式に着目し、先輩看護師によってこれまでに蓄積されているノウハウを継承できる枠組みを提案する。



患者から聞き出した主訴や主観的事項を問題リストへ入力し、そこから該当する問題を抽出する。その問題を共有する過去の患者の経過記録を取得する。取得した経過記録と患者情報を基にして、類似する患者を見つけ出し、その情報を看護師に提示し、参考に供する。

ここで、全情報を提示する前に、問題名、主観的事項、客観的事項などの限定情報を先に提示し、自分であればどうするのかを新人看護師に考えさせる。その後、評価や計画の情報を提

示する。このような手順にすることで、能動的な学習にもつながり、システムから一方的に情報が提示されるだけでなく、自分と他者との考えの違いなどを把握できる。

新人看護師はこれまでに講義や看護実習によって知識や技術を学んでいるが、就職後に理想と現実との相違で起こるリアリティショックを受ける。これが解決されない場合には、就業意欲の喪失を起し、場合によっては離職に至ることもある。この原因のひとつに【問題状況への対処困難性】[4]が挙げられている。問題に直面した場合、誰にも相談できない、自分だけの力では進められないという状況に陥りやすい。新人であるがゆえに先輩看護師に気を遣って相談することができず、自分ひとりで抱え込んでしまうのである。こうした状況を解決するためにも、これまでに残されてきた現場での記録を活用して、自習支援環境において経験知を活用できることが大切である。

### 4. あとがき

今回のシステムでは、現場で蓄積された記録の再利用ということを目指し、そこから新人看護師を対象とした、病院内における独特な知識継承の新しい枠組みを提案した。システムの使い方によっては、「先輩は実際にどのように看護したのか」を学びたい意識の高い看護師や、問題をひとりで抱え込んでしまう新人看護師への学習支援にもつながることが期待される。

今後は実際に現場で働く看護師と相談しながら、記録内容のデータを収集し、構成の見直し・改良を重ね、このシステムの有効性を証明していきたい。

### 参考文献

- [1] 羽白 清：POS のカルテ/POMR の正しい書き方改訂 2 版、pp.25-27、金芳堂、(2005)
- [2] 小川 泰右：医療タスクフローに埋め込まれた実践知循環プロセスの実現に向けて- 医療サービスオントロジーの構築手法を中心にして -、人工知能学会第 24 回全国大会(2010)
- [3] カルテメーカーTM・ホームページ <http://www5.big.or.jp/~karte-m/index.html> (2010 年 12 月 11 日現在)
- [4] 小元まき子/工藤綾子/服部恵子/永野光子/藤尾麻衣子：看護師の離職を招いた要因(看護基礎教育課程修了後 6 年未満の看護師に焦点をあてて)、研究報告・順天堂大学医療看護学部 医療看護研究 4、pp.72-78(2008)